

## 令和2年度決算の状況

令和2年度、世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行（パンデミック）により、未曾有の経済停滞にさらされました。我が国の経済は、インバウンド需要の消失にはじまり、経済社会活動の抑制による内需の不振、貿易相手国の経済活動停止に伴う輸出の大幅な減少など、かつて経験したことのない深刻なダメージを受けました。

一方で、感染症の流行がもたらした「新しい生活様式」は、デジタル・トランスフォーメーションを大きく進展させる契機となり、暮らしやビジネスのあり方に変革をもたらしています。当面は、厳しい経済環境が続くことが見込まれますが、北陸新幹線の延伸開業や大阪・関西万博の開催など、まちづくりを進める上での大きな目標を見定めながら、ピンチをチャンスに変える発想で、行財政改革や新しい政策の展開を図っていかなければなりません。

このような状況の中、令和2年度は、国の臨時交付金等を活用しながら新型コロナウイルス感染症対策を多岐にわたり実施し、一般会計の決算規模は過去最大となりました。このほか、小松市初の義務教育学校 松東みどり学園の整備のほか、松東地域こども園やのしろ児童館の整備に着手するなど、教育や子育て環境の整備を図りました。

歳入歳出性質別決算を前年度と比較すると、歳入では、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界経済減速の影響などで法人市民税が大きく減少（約9.0億円）しました。一方、消費税率改定による地方消費税交付金の増加（約4.4億円）、法人事業税交付金の新設（約1.6億円）、新型コロナウイルス感染症対策や松東みどり学園整備に係る補助金などにより、国庫支出金が約143.9億円の増加（特別定額給付金費：約108.0億円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金：約14.7億円、その他新型コロナウイルス感染症対応関係交付金：約6.5億円、松東みどり学園：約1.4億円）、法人市民税等の減少に伴う減収補填債発行（約9.1億円）により、地方債が約4.1億

円の増加となるなど、歳入全体としては約 144.1 億円 (31.7%) の増額となりました。

歳出においては、新型コロナウイルス感染症対策関連の事業費が約 134.8 億円となつたほか、幼児教育・保育無償化の通年化などにより扶助費が約 5.0 億円の増加、松東みどり学園など教育・子育て関連施設の整備等により普通建設事業費が約 6.7 億円の増加となるなど、歳出全体で約 143.8 億円 (32.2%) の増額となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

## 1. 一般会計

予算額 63,689,747 千円の内 3,348,429 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入 59,843,388 千円、歳出 58,972,388 千円で、繰越財源 240,573 千円を除いた実質収支額は 630,427 千円の黒字決算となり、その内 320,000 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 310,427 千円となりました。

## 2. 特別会計

### (1) 国民健康保険事業

予算額 9,747,095 千円に対し、決算額は、歳入 9,786,916 千円、歳出 9,724,808 千円で、実質収支額は 62,108 千円の黒字決算となり、その内 32,000 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 30,108 千円となりました。

### (2) 介護保険事業

予算額 10,087,344 千円に対し、決算額は、歳入 10,006,155 千円、歳出 9,822,812 千円で、実質収支額は 183,343 千円の黒字決算となり、その内 141,820 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 41,523 千円となりました。

### (3) 公債管理

予算額 9,325,300 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 9,323,246 千円となりました。

（4）産業団地事業

予算額 1,036,800 千円の内 340,100 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、  
歳入歳出とも 691,867 千円となりました。

（5）後期高齢者医療

予算額 1,607,044 千円に対し、決算額は、歳入 1,586,515 千円、歳出 1,583,160  
千円で、実質収支額は 3,355 千円の黒字決算となりました。